



Sapporo
education and
culture hall
news

Raku

63



2020年以降の新型コロナウイルス感染症の流行という困難な時期、続く2023年1月からの大規模改修工事による休館を経て、2024年10月1日、いよいよリニューアルオープンを迎える札幌市教育文化会館(以下、教文)。再スタートを切るにあたって、リニューアルオープン記念事業に込められた思いや、教文が目指す未来の姿について伺いました。

ラインナップから見えてくる 教文ならではの視点

——リニューアルオープン記念事業には、伝統芸能から「石山緑地新能(仮称)」、STV65周年事業「野村萬斎新作狂言」、人形浄瑠璃文楽、松竹大歌舞伎、北海道日本舞踊公演の五つ。そして教文オペラプログラムとして北海道二期会創立60周年記念公演。もう一つは札幌文化団体協議会による「第53回SAPPOROふんだんきょうフェスティバル」がラインナップされています。なぜこの七つの事業を記念事業として選んだのでしょうか？

中出館長 教文は開館当初からの使命として「伝統芸能の振興」と「市民の文化活動の支援」の二つに力を入れており、記念事業のラインナップもその柱に沿ったものとなっています。Raku52号の特集「開館から現在までの変遷」を見ると、過去の周年記念事業もやはり当館の柱を節目ごとに打ち出すもので、今回のラインナップと重なることに気付きました。

水野 リニューアルオープンするのとなった背景があるので、リニューアルという言葉には設備の改修以上の意味合いがあるのではないのでしょうか。
中出館長 単に改修工事を終えて再開するということだけではないと感じています。休館中もお客様から貸館に関する問い合わせの電話を毎日のように頂いていて、教文が果たしていた役割の重さを感じましたし、期待に対する責任感や緊張感もあります。コロナ禍による影響が続く中で休館となった意味では満を持しての再開という形になりませんから、皆様の期待に応えられるよう頑張らないといけないと思っています。
水野 コロナ禍で利用がほとんどなくなる中で、市民の方々が生の舞台から離れてしまうのではないかとという不安を持っていましたが、ある程度コロナが落ち着いてきた中で新たに事業を組み立てながら、舞台芸術を切望する気持ちで市民の方々に強くあることを改めて感じました。リニューアルオープンでようやく皆様の気持ちに応えられる環境になるので、職員として非常に嬉しいです。
橋本 昨年はコロナ禍での対応方法が進んだ時期でしたが、教文はその時期に休館していた分、お客様が戻ってきているのかどうかを肌感として実感できていません。そこに対する不安感がありますし、同じことをやるのがいいのかどうか予測のつかない部分もあります。今回の改修工事や事業に関して、ぱっと見るとあまり変わっていないように感じられるかもしれないので、そこがどう受け止められるのかなという



「特集」 教文リニューアル座談会

教文の強みを生かした 記念事業と目指す未来



札幌市教育文化会館
館長 中出



札幌市教育文化会館
事業課長 水野



札幌市教育文化会館
事業係長 橋本



札幌市教育文化会館
事業担当係長 桑原

年度半ばの10月からということもあり、半期の中でどれだけできるのかということも含めて検討しました。皆様にしっかりと教文の存在を思い出してもらえよう、新能や野村萬斎さんの新作狂言などインパクトのあるものという視点が一つ。同時に、教文は地元の方に大事にもらっている施設ですから、地元の方が親しんできた教文を取り戻すという視点も一つありました。幸いにもSTVさんは65周年、北海道二期会さんは60周年という、地元の団体にとって特別な年に共に事業を選定し開催することができました。

橋本 今回日本舞踊公演が入っていますが、教文は1977年の開館直後から十数年間、地元の日本舞踊団体と協働して創作日舞を制作してきた歴史があります。テーマをもとにメニューを構成する中で、過去からの継続性とい

不安も若干あります。

桑原 コロナ禍が数年続いたことで、高齢者が劇場に足を運んだり、親子で観劇したりする機会が減ってしまったことは、今後の教文にとって大きな課題だと思っています。演劇やダンスのワークショップも数が減ってしまい、人が近い位置でコミュニケーションを取りながら生きる活力を得る機会がなくなってしまうました。首都圏の場合にはコロナ前の状況に戻っているようですが、札幌や北海道に関してはまだまだこれからなので、今後どのように支援していけるのかを考えています。

笑いや協働を大切に、 市民の方々と共に歩み続ける

——教文が目指す未来の姿について教えてください。

中出館長 2012年にできた劇場法によって劇場の役割が格段に広がり、全国の各施設がその役割を果たすべく、模索しながら創意工夫しているのが現状だと思っています。教文は歴史を大事にしながら事業に取り組んできて、地域住民の方々から信頼を得て親しんでいただき、利用率もかなり高いという意味では一定の評価をいただいていると言えます。ただ劇場法で広がった役割に対して応えられているかと言うと、もっと取り組まないといけない部分もあります。リニューアルオープンを新たなスタート地点として考えていかなければと思います。

水野 市内に新しい施設がいろいろあ

う視点もありました。伝統芸能に焦点をあてることと、地元の団体と協働する周年事業などで、狙いをうまく打ち出せたと思います。
桑原 市民の皆さんの期待に応えられる事業であるということは大前提として、教文という劇場の舞台機構を最大限活用し、舞台芸術の魅力を伝えていくことが自分たちに課せられている使命です。古典芸能で地舞台の上に敷いて足拍子の響きを良くする所作台や、オペラのオーケストラピットなど、教文が劇場として持つ機能を活用しているところを見ていただくことをメインで考えたセレクションになっていると思います。

リニューアルで

「新たになったもの」とは何か？

——コロナ禍による影響が続く中で休館

の中で、教文でやりたいとお声もいただき、市民の方々に必要とされている教文であると再認識しています。貸館事業での市民の利用も含めて、教文が今後どのように進んでいくのがいいのかという点についてはいろいろな視点があると思いますが、やはり皆様の気持ちをしつかり取り込み、市民と共に歩む事業を組み立てていくのが使命だと考えています。

橋本 コロナ禍を経て一番危惧していることは制作する人間がやめていって行く状況で、今もそれは続いています。貸館が増えていくことも制作に関わる人たちの応援になりますし、教文が地元の団体や制作者と協働し、文化芸術に関わる人たちが今後も長く活動をしていくためのベースとなるものをつくっていくことも一つの使命だと思っています。

桑原 開場以来の狂言やコメディ寄りのオペラなど、教文の過去の事業には笑いをみんなで共有して楽しもうという感覚があると感じています。教文が市民の方々と一緒に笑いを体験してきた歴史を、これからも大切にしていきたいです。孤独が一つの社会問題としてある中で笑いの力は生きるとして、舞台芸術を通じて観客も我々も温かい気持ちになれる笑いの感覚を「共生」へと昇華させることができたら、さらに良い会館として認められる気がします。そのためにも、多様な方に足を運んでもらえる劇場になることがとても大切だと思っています。

公演・イベントに関するお問い合わせ

札幌市教育文化会館 事業課
011-271-5822
(平日9:00~17:00 土日祝休)

主催公演・イベント
ラインナップはこちら
<https://www.kyobun.org/event.php>



多彩なリニューアル記念事業が目白押し

施設設備の更新改修工事も2024年9月に終了予定で、今年度はリニューアル記念事業として様々な公演を予定しております。リニューアル直前の8月にはプレイベントとして札幌市南区の石山緑地で新能(たきぎのう)公演、リニューアル後の10月には、こけら落とし公演として狂言師・野村萬斎の新作狂言を開催いたします。そのほか様々な芸術文化公演を予定しておりますので、皆様のご来館を心よりお待ちしております。

松竹大歌舞伎

2024. 11.6 [水] 2回公演

昨年に引き続き大人気の「松竹大歌舞伎」が、今年はリニューアルした教文に帰ってきます。

会場 札幌市教育文化会館
大ホール



石山緑地新能 あたら夜の月影 — 覧古考新 —

2024. 8.10 [土] ※雨天時は11日(日・祝)に順延

“誰もが楽しめる新しい新能”を石山緑地で開催します。会場は札幌の地元芸術家集団が設計した札幌石山緑地内の野外ステージ・ネガティブマウンド。これまで見たことのない新しい新能をご期待ください。

会場 石山緑地
ネガティブマウンド(石の広場)



©馬場鏡丞

北海道日本舞踊公演 多彩な演目で贈る日本舞踊の魅力

2025. 3.20 [木・祝]

珠玉の日本舞踊演目と、札幌初上演の新作日本舞踊をご堪能ください。

[演目] 日本舞踊 箏曲「令和薫風」・大和楽「早春」
萩江「鐘の岬」
新作舞踊「樽男=びのきお=」

会場 札幌市教育文化会館
大ホール



©(公社)日本舞踊協会

野村萬斎 新作狂言

2024. 10.4 [金] 5 [土]

狂言師・野村萬斎を迎え、池澤夏樹の短編小説をもとにした新作狂言「鮎」などを上演します。

会場 札幌市教育文化会館
大ホール



※写真は過去公演より

共催事業

第53回 SAPPOROぶんだんきょう フェスティバル

2024. 10.12 [土] 13 [日]



札幌のダンサー・舞踊家が一堂に会し、楽しみながら舞台と触れ合う場を提供するとともに、アーティストと市民との交流の場にもなっています。

会場 札幌市教育文化会館
大ホール

教文オペラプログラム 北海道二期会創立60周年記念公演 喜歌劇「こうもり」

2024. 11.23 [土・祝] 24 [日]



道内では珍しいドイツ語歌唱(日本語台詞)、プロジェクションマッピング技術を用いた舞台上演されます。

会場 札幌市教育文化会館
大ホール

人形浄瑠璃文楽

2024. 10.18 [金] 2回公演

例年好評の「文楽」が華やかに戻って参ります。

昼の部: 二人三番叟
絵本太功記 夕顔棚の段/尼ヶ崎の段

夜の部: 近頃河原の連引 四条河原の段/堀川猿回しの段

会場 札幌市教育文化会館
大ホール



©青木信二

TOPICS.1

教文ホームページ、フルリニューアルに向けて制作進行中!

現在、施設設備の大規模改修工事のため全館休館中の教文ですが、ホームページの方も全面的にリニューアルに向けて制作を進めています。皆様には、公演などのイベント情報など知りたい情報を見つけやすくし、また貸館に関する施設情報、ご予約からご利用案内までわかりやすくご説明することで、これまで以上にご利用しやすいようなデザイン・レイアウト・ページ構成を見直してまいります。現在のホームページは変わらずリニューアル直前までご利用いただけ、最新のお知らせ、公演情報、情報誌やアーカイブ情報の閲覧、その他のページもこれまで通りご利用いただけます。リニューアルサイトの公開は2024年4月頃を予定しておりますので、どうかご期待ください。今後も教文ホームページのご利用をよろしくお願い申し上げます。



※現在制作中のデザインをイメージしたものです。実際のホームページと変更になる場合があります。

TOPICS.2

「薪能」プロモーション映像撮影 in 石山緑地レポート

「薪能」のプロモーション映像撮影が2日間にわたり行われました。撮影場所は実際に薪能を行う札幌市南区の石山緑地。札幌軟石の石切り場跡地を4年かけ蘇らせたこの場所は、その景観を活かしながら札幌軟石を使用したアート作品や広場がある唯一無二の公園です。映像を監督するのは札幌を中心に世界各地で活躍する写真家・映像作家の馬場鏡丞(株式会社IAM)さん。京都から観世流の能楽師が来札し能面や衣装をまもって出演しました。薪の明かりに照らされた能楽師が石山緑地ならではの景観に佇む様子は、今まで見たことのない世界観で、薪能への期待が自然と高まります。2日目にはクレーンも登場する大掛かりな撮影が行われるなど、この映像だけでも1つの作品と言える素晴らしい作品です。映像公開をお楽しみに!



Art
Culture
Human

03

声楽家

み
べ
あ
き
こ
三部 安紀子



舞台写真は、北海道二期会創立35周年記念「ドン・ジョヴァンニ」(2000.2.25~26)より

次世代への思い 声楽家としての経験がつなぐ

「本当に苦労したんですよ!当時若い頃はコピー機もなく写譜はすべて自分で手書きで、演奏旅行する際には100曲以上の譜面を写譜して挑んでいましたよ!」そう言って笑う三部さんが札幌で立ち上げた「みべ音楽院」は今年で38年を迎えた。声楽家を目指した三部さんは東京で音楽学校を卒業後、今と違いほとんど情報がない中、本場の声楽を学ぶためローマ、ウィーン、ヴィルツブルグで研鑽。

その後、東京へ拠点を移し声楽家として活躍してきた三部さんは、自身が切り開いてきた道を次世代へとつなげるべく「若い人たちのパイプ役になろう」と決意。故郷の札幌へと移住し「みべ音楽院」を設立。生徒たちが少しずつ増え、ドイツやニューヨーク、ミラノなど世界へ羽ばたく素晴らしい人材も輩出してきた。「人に教えるのはお医者様と同じだと思っていて。治っていく(良くなっていく)様子を見るのが本当に嬉しくて。そうやってこの世界で活躍していく様子を見ていることが本当に大好きなんです。」

三部さんの活躍は人材育成に留まらない。声楽家団体である北海道二期会では芸術監督を務め声楽家たちの活躍する場を増やすとともに、オペラなどの舞台芸術を市民に届ける活動を行っている。

北海道二期会は60周年を迎え、記念公演としてヨハン・シュトラウス2世による喜歌劇『こうもり』を11月に上演する。会場の教文大ホールは三部さんにとっては2000年にスペインの劇場から9tもの大道具を輸入して『ドン・ジョヴァンニ』の公演を行った思い出深い会場であり「オペラで生の声を届けられる最良のステージ」として大切な場所だ。

様々な文化団体に重要な役割を担い、札幌の文化芸術に欠かせない存在となっている三部さん。「自分の街に誇りが持てるかは芸術文化がとても大事。子どもたちには色々な文化を体験してもらいたいです。」という三部さんの多岐に渡る活動に今後も目が離せない。

声楽家、みべ音楽院院長、武蔵野音楽大学卒業後、ローマサンタチエーリア音楽院へ留学、声楽家として各地でリサイタルを開催し、優れた歌唱が称賞されている。1987年には、みべ音楽院を設立。次世代の育成に積極的に取り組むほか、北海道二期会の芸術監督を始め芸術全般の各種委員も務めるなど、北海道における文化の発展に大きく貢献している。